

## 会社概要



設立：1952年3月  
所在地：和歌山県橋本市  
高野口町名倉998-1  
資本金：3,000万円  
従業員：19名（2023年12月時点）

## 業務内容



学校・オフィス向け家具  
（パーテーション、ピン  
レスボード、黒板等）の  
製造、販売



## ネパール人社員の様々な提案により、事業を改善

コマイが初めて外国人社員を雇用したのは2022年。家具の設計ができるCAD人材を求めて、南海電鉄のネパール人IT人材紹介事業を利用した。多数の応募があった中で、初めての外国人雇用ということもあり、日本人社員も安心して受け入れられる人柄かどうかを採用時には重視した。

ネパール人IT人材の活躍により、ECサイトの製作や、図面作成等を社内で行う枠組みが構築出来た。家具の試し置きイメージを画像で確認できるAR（拡張現実）サービスの開発等、新たな取組の提案を自ら進んで行ってくれた。その後、新たなネパール人社員を雇用した際は、後輩指導や、日本人社員との間に入っただけの調整を行うなど、想像していた以上の活躍をしてくれた。

現在は、EC管理や図面作成担当として、2名のネパール人社員が活躍している。

## 技能実習生の勤勉な姿勢は現場の雰囲気向上にも貢献

ネパール人社員の雇用に続いて、ベトナム人技能実習生の受入れも開始。家具の組み立て等を行う工場では、4名の技能実習生が活躍している。真剣に学ぼうとする技能実習生の姿勢は、教える側にとっても嬉しく、日本人の職人も教えがいを感じている。

工場では工程を実際にやって見せて教える方式をとっている。曖昧な表現や和歌山弁等は控え、作業スペースには、日本人でも伝えられるようにベトナム語の数字をカタカナで表記する等行っている。

技能実習生は制度上、最長でも5年で帰国となるため、業務の引継ぎがスムーズにいくよう考慮して受け入れていきたいと考えている。後輩ができると先輩社員の意識も高まるため、人の入れ替わりは良い面もあるが、技術の承継は5年スパンでは難しく、今後検討していかなければならない課題である。

## 同じ会社の仲間としてお互いのことを知り、距離を縮める工夫

最初のネパール人社員は、コロナの影響でしばらく来日できず、来日前はリモートで工場見学や社員と交流し、来日後は、各従業員と30分ずつ話をする時間を作る等、外国人社員との距離を縮める工夫をした。

文化的なギャップを感じる機会は意外に少ない。ネパールに多いヒンドゥー教徒は牛肉や豚肉が食べられないため、一緒に食事をする際には食べ物への配慮を行っている。また、生活支援として、引越しの手伝いや家具の取り揃え等も行っている。

ネパールの「ダサイン」というヒンドゥー教徒のお祭りをネパール人社員達が祝った際には、社長も自ら参加した。外国人社員を雇用したことで、新たに知る文化や風習も多く、社員の母国の文化を尊重している。

技能実習生を受け入れる際は、既に受け入れていた企業に見学に行き、現場作業でどのような教え方が伝わりやすいかを参考にした。日々の業務において、社員が辛いと感じている点に気づけなければ、辛さを我慢し、辞めてしまうことがある。経営者自身が社員の目線に立って、現場の状況に注意を払うことが大切であると考えている。



忘年会の様子

## 環境変化のなかで、柔軟に変化し、新たな取組に挑戦

コロナ禍以降、工場で働く若い人材の採用が困難になり、省人化投資も検討したが、工程ごとの機械化や、機械設置場所の地盤改良などが必要となり、難しいと判断。大量生産するなら機械化メリットもあるが、多数の作業工程があり、1人何役も担うのが中小企業。多様な作業を習得し、作業場所も工程も選ばず、臨機応変に対応できる「人」の能力を機械で代用することは難しい。

環境が変化していくなかで、柔軟な対応ができなければ、中小企業は生き残っていけない。「うちがやらなくても他社がやってしまう。それならうちがやるんだ」という強い思いを持って新たな取組を実行してきた。

外国人社員を仲間に加え、コマイの新たな挑戦は続く。

(インタビュー日：2023年12月)

